令和7年度 全国学力•学習状況調査



一取手市の児童生徒の学習状況について一

取手市教育委員会 指導課

令和7年4月17日(木)に全国一斉に行われた、全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。今回の結果をもとに、取手市立小中学校の児童生徒の学習状況を掲載します。

なお、この調査は学力の一部をはかるものであり、 学力のすべてを示すものではありません。

【調査対象】

小学校6年生、中学校3年生



【調査内容】

- ①教科に関する調査 (国語、算数・数学、理科)
- ②生活習慣や学習環境に関する調査 (質問紙)

国語

【小学校】

問題数 全 | 4問

【中学校】

問題数 全 | 4問

理科

【小学校】

問題数 全 1 7 問

【中学校】

問題数 全26問

算数•数学

【小学校】算数

問題数 全 | 6問

【中学校】数学

問題数 全 1 5 問

質問紙

【小学校】 63項目

【中学校】 65項目

取手市立小学校国語の結果



成果がみられたところ

- ◎自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える力 (話すこと・聞くこと、選択式)
- ◎目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、 自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力 (書くこと、記述式)

課題となったところ

- ▲目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして 必要な情報を見付ける力 (読むこと、選択式)
- ▲事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、 文章全体の構成を捉えて要旨を把握する力 (読むこと、選択式)
- ▲学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正し く使う力 (言葉の特徴や使い方に関する事項)

例) <u>この</u>み→好み <u>あつ</u>い→暑い

- ◇目的に応じて、文章と図表を結び付けるなどして必要な情報を 見付けることができるようにする。
 - →文章中の言葉と図表などの言葉を線で結び付ける。
- →ICTを活用し、必要だと考えた語や文にマーカーを引いて結び付きを 捉える。
- ◇文章全体の構成を捉えて要旨を把握する。
 - →書き手の考えを自分の言葉で短くまとめる。
- ◇ 既習漢字を意識して文や文章の中で使い、同音異義語や同訓 異字を日常的に使い分けられるようにする。
 - •漢字の練習は作業的な練習になっていないだろうか?
 - →1文字につき5回書くなど機械的な練習だけでなく、漢字や熟語の成り 立ちを調べたり、覚えた漢字で短文を作ったりする学習を加える。
 - →AIドリルの手書きの漢字練習機能を活用し、AIで出題された自身の間違いやすい漢字を中心に練習するなど、より効果が高い練習方法にシフトする。
 - →タブレット端末で変換候補に挙がった漢字に着目し、文章に合う漢字を 選ぶことができるようにする。

取手市立中学校国語の結果



成果がみられたところ

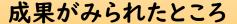
- ◎文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の 設定の仕方を捉える力 (読むこと、短答式)
- ◎目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする力 (書くこと、選択式)
- ◎自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して、 話の構成を工夫する力 (話すこと・聞くこと、選択式)

課題となったところ

- ▲文章の構成や展開について、根拠を明確にして考える力 (読むこと、記述式)
- ▲読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを 確かめて、文章を整える力 (書くこと、記述式)
- ▲読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整える力 (書くこと、短答式)

- ◇ 文章が、なぜそのような構成や展開になっているのか、 自分なりに考えられるようにする。
 - ・文章を読むときに、構成や展開の効果について考えているか?
 - →文章全体や部分における構成や展開を把握する。
 - →構成や展開の効果について考える。
- ◇相手意識をもって、文章を整えられるようにする。
 - ・読み手に伝わるように、文章を整えているか?
 - →観点を明確にして文章を整えたり、自分の伝えようとすることが伝わる かどうかを確かめる。
 - →タブレット端末を利用して文章を作成する際には、自分の学習の状況 を振り返ることができるように、コメント機能などを利用して、訂正した 理由を挙げたり、整えた箇所を消さずに残したりする。
 - ・読み手の立場に立って、表記を確かめているか?
 - →自分の書いた文章を読み返してみる。
 - →読み手の立場に立って、辞書やタブレット端末を使って文字や表記が 正しいか、漢字と仮名の使い分けが適切かどうかなどを確かめる。
 - →同音異義語など、意味や表記を間違えやすい漢字を日頃から意識して 使う習慣を身に付ける。

取手市立小学校算数の結果



◎日常の事象について、目的に応じて表やグラフからデータの特徴や傾向を捉える力

(データの活用 知識・技能)

◎小数の計算について、数の相対的な大きさを理解する力 (数と式 知識・技能)

課題となったところ

▲図形を構成する要素とその関係に着目し、図形の性質や 図形の構成の仕方について考察する力

(図形 知識·技能)

- →「図形(平行四辺形、台形)の性質 作図の方法や図形の弁別について、図形の性質と関連付けることが できていない。
- ▲二つの数量を比較する場面において、百分率を用いた 表現を解釈する力 (変化と関係 思考・判断・表現)
- →「増えた分」と「増量後の全体量」の違い 示された情報から基準量と比較量、割合の関係を正しく捉えることが できていない。



- ◇具体的な操作活動を通して、図形の意味や性質の理解を 深めることで、必要な要素を見いだせるようにする。
 - ・具体的な操作活動を取り入れることを大切にする。
 - →実際に図形を作図し、いくつかある図形の性質のうち、どの性質を 用いて作図しているのか説明する活動を取り入れる。
 - →置き方をいろいろ変えられる状態で図形を示し、弁別した理由を 説明させる活動を通して、図形の性質を基に考えられるようにする。
- ◇ 言葉や図、式を関連付けて、基準量と比較量、割合の関係を 正しく捉えることができるようにする。
 - ・図と式や言葉を用いて説明する活動を取り入れる。
 - →基準量を | として基準量と比較量を図に表し、「10%増量」について「増えた分」と「増量後の全体量」の違いを、図と式や言葉を用いて説明することで、数量の関係を捉えることができるようにする。
 - →基準量の小数を用いた倍に当たる量を捉えることができるようにするために、基準量の「1倍」に当たる量は基準量と変わらないことや基準量の「0.5倍」に当たる量は基準量の半分となることをおさえ、基準量の「1倍」「0.5倍」「0.25倍」「0.75倍」に当たる量と大小比較ができるようにする。

取手市立中学校数学の結果



成果がみられたところ

- ◎事象の特徴を的確に捉え、意味を理解する力 (数と式 知識・技能)
- ◎不確定な事象についてデータに基づいて考察する力 (データの活用 知識・技能)

課題となったところ

▲数に関する事象を考察し、事柄が成り立つ理由や 成り立たない理由を数学的に説明する力

(数と式 知識・技能 思考・判断・表現)

- →「連続する二つの3の倍数」 数学における「連続する」という表現の理解が不十分である。 数学的に表現したことを事象に即して解釈できていない。
- ▲筋道を立てて考え、証明する力 (図形 思考・判断・表現)
 - →「数学的表現を使った証明」 仮定から結論を導く推論の過程を数学的に表現する力が身に付いていない。

今後の学校教育の中で

- ◇問題解決の過程や結果を振り返りながら、統合的・発展的に 考察できるようにする。
 - ・用語や意味を正しく理解できるようにする。
 - →3の倍数を順に3、6、9、12、… のように並べたとき、連続する二つ の3の倍数は隣り合う二つの数であることを確認する。
 - ・式の意味を読み取り、特徴を数学的に説明できるようにする。
 - →文字式をどのような式に変形できるかを考察する場面を設定し、 2×(文字式)が偶数であることや2×(文字式)+1が奇数であること、 a×(文字式)がaの倍数であることを解釈できるようにする。
- ◇事柄が成り立つことについて、方針を立て、それに基づいて 証明することができるようにする。
 - •方針を立ててから証明をかいているか?
 - →仮定から結論まで、何を、どんな性質を根拠に、どのような順序 で説明していくのかという証明の方針を確認する活動を取り入 れる。

「仮定から分かることは?」 「結論を導くために必要なことは?」

取手市立小学校理科の結果



成果がみられたところ

- ◎乾電池のつなぎ方について、目的に沿ったつなぎ方を 構想する力 (「エネルギー」の領域 知識・技能)
- ◎植物のつくりや育ち方について理解する力 (「生命」の領域 知識・技能)

課題となったところ

▲自然の事物・現象を比較し、差異点や共通点を基に 問題を見いだし、表現する力

(「生命」の領域 思考・判断・表現)

- →差異点や共通点を基に、新たな問題を見いだし、表現することができて いない。
- ▲物質の性質について、解決するための観察、実験の方法 が適切であったかを検討し、表現する力

(「粒子」の領域 思考・判断・表現)

→観察、実験の方法が適切であったかを判断できていない。

今後の学校教育の中で

- ◇差異点や共通点を基に、具体的な条件に着目し、問題を見い だすことができるようにする。
 - ・観察、実験の結果を比較して、差異点や共通点を基に、具体的な 条件に着目した問題を見いだす場面を設定する。
 - →結果を比較して、差異点から新たな条件を見いだせるようにする。
 - →既習の内容や生活の場面と関係付けて、新たな条件を見いだせるようにする。

「OOの時、△△が有効だったけど、今回はどうかな?」

- →自分なりの問題を見いだし、伝え合う活動を取り入れる。
- ◇より妥当な考えをつくりだすために、様々な場面で解決の方法を改善していけるようにする。
 - ·児童自ら実験を計画し、その方法で予想したことを確かめられる かを検討して、改善することが大切である。
 - →学習活動の過程の中で、計画を検討、改善する場面を複数位置付けるようにする。

「解決の方法を発想する場面」

「実験を行い、その結果や方法を振り返る場面」

「問題に対するまとめを導きだす場面」

取手市立中学校理科の結果



成果がみられたところ

◎身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を 解決するための課題を設定する力

(「粒子」の領域 思考・判断・表現)

◎大地の変化と、地層の様子やその構成物に関する知識 及び技能を関連付けて、地層の重なり方や広がり方を 推定する力 (「地球」の領域 思考・判断・表現)

課題となったところ

- ▲身の回りにある気体の密度の大小関係について分析し、 解釈する力 (「粒子」の領域 思考・判断・表現)
 - →密度の大小を比較する根拠となる知識を誤って捉えている。
 - →気体の浮き沈みが空気の密度と比較したものであることを 理解していない。
- ▲生物の体のつくりと働きについて、共通性と多様性の 視点で比較し、多面的、総合的に分析して解釈する力 (「生命」の領域 思考・判断・表現)
 - →日常生活やほかの自然の事物・現象に適用できない。

- ◇ <u>観察、実験の様子と気体の性質の知識及び技能を関連付け</u> て、分析して解釈できるようにする。
 - ・観察、実験から得られた結果と気体の性質の知識及び技能との 関連を調べる場面を設定する。
 - →「密度が大きい(小さい)気体は沈む(浮く)」
 - →「どうして沈む(浮く)の?」 ⇒ 空気との比較へ
 - ・これまでの学習内容と関連付けるようにする。
 - →気体の捕集方法(下方置換・上方置換)と関連付ける。
- ◇学習している自然の事物・現象の特徴を、日常生活や他の 自然の事物・現象に適用できるようにする。
 - ・必要な物質を体内に取り入れる際の共通する特徴を共通性 と多様性の見方で捉える。
 - →「共通性」・・・どれも「表面積を広くする」こと
 - →「多様性」・・・表面積を広げるための構造に違いがあること
 - ・日常生活や他の自然の事物・現象に適用させる学習場面を 設定する。
 - →他領域で得た知識・技能と関連付けられるような授業構成の工夫

取手市立小中学校児童生徒質問紙調査の結果

小学校児童質問紙の結果から



- ○毎朝、朝食を摂取している児童の割合が高いで す。
- ○「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と 思う児童の割合が高いです。
- ▲「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる 大人にいつでも相談できる」と感じる児童の割合 が低いです。
- ▲「分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできている」と感じる児童の割合が低いです。

中学校児童質問紙の結果から



- ○毎朝、朝食を摂取している生徒の割合が高いで す。
- ○「人の役に立つ人間になりたいと思う」と感じる生 徒の割合が高いです。
- ▲「将来の夢や目標をもっている」と感じる生徒の割合が低いです。
- ▲「分からないことや詳しく知りたいことがあったとき に、自分で学び方を考え、工夫することはできてい る」と感じる生徒の割合が低いです。

今後の学校教育の中で

「分からないことや知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできている」と感じる児童生徒の割合が低いことから、答えが1つではない問題を多く取り入れた授業を設定することで探究するカや、学習ツールなど自分に合った学びを選択するカを育みます。また、土台となる学級経営において、安心して挑戦できる、失敗できる、環境づくりを推進します。

質問紙調査から分かる学力の関係



このような子どもほど、正答率が高い傾向にあります

※小中学生ともに同様の傾向が見られます。

- ○基本的な生活習慣が確立している児童生徒 (毎朝同じ時刻に起きて、朝食を食べている。)
- ○自分には、よいところがあると思う児童生徒
- ○人の役に立つ人間になりたいと思う児童生徒
- ○読書が好きな児童生徒
- OICTを使って、情報を整理したり文章を作成したりしている児童生徒
- ○自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して 発表している児童生徒
- ○課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた児童生徒

今後の学校教育の中で

「毎朝同じ時刻に起きて、朝食を食べている」など、基本的な生活習慣の定着を図ったり、「自分にはよいところがある」「人の役に立つ人間になりたいと思う」など、自己肯定感や他者・地域の役に立とうと思う心や態度を養ったりすることが、広い意味で学力の向上につながると考えます。

学校教育の中では、市の特色であるアートの視点を取り入れた教育活動や探究的な学びの充実を図り、ICTの効果的な活用など、未来を拓く学びを展開し、すべての子どもの可能性を引き出す活力ある学校づくりを進めてまいります。

